

令和7年度事業報告（2025年度）

自 令和7年4月 1日

至 令和8年3月31日

[教育理念]

学生一人ひとりを大切に、愛情を持ってきめ細やかな指導で専門知識、技能の習得及び人間性豊かな人材を育成する

[基本方針]

1. 社会の公器として国の発展に貢献する人材育成を目指す
2. 健全な資産のもと堅実で安定的な学園経営を目指す
3. 時代の変化を読み、時代のニーズに対応した教育を行う

[令和7年度基本計画と具体的内容]

1. 教務部

(1) 基本計画

ファッション分野への希望者減少の中、希望者の興味に沿ったカリキュラムを常に検討し、入学者の確保と在校生の退学率減少を丁寧に進める

(2) 具体的内容

ア) 学生満足度の向上、退学防止策

<行事の充実>

*学生満足度の向上を目指し、学科、学年間の交流機会を増やす

⇒2025年4月11日 新入生親睦会（ファッション）

4月18日 新入生親睦会（デジタル）

5月15日、16日 校外オリエンテーション：葛西臨海公園BBQ、TDL（合同）

5月16日 高尾山ハイキング（デジタル1年生）

6月18日 チームラボ（麻布台ヒルズ）（デジタル）

9月11日 ボーリング大会（デジタル）

11月13日 スポーツ大会（デジタル）

<学生面談の実施、キャリアサポート>

*前期、後期開始時、就職関連など、学生の状況を把握する面談を行う

*就職活動の動機付けやサポートを充実させ、就職希望者就職率を上げる

⇒就職希望者就職率：76%（昨年74%）

国際情報ビジネス科…32名中、23名内定（年度内に就労ビザ取得5名）

イ) 教育内容および、カリキュラムの充実

<質の高い授業を目指し、選択科目の拡大をする>

*「アイドルプロデュース衣装製作」の授業として、アイドルへの衣装提供を実現し、学生満足度を上げていく

⇒選択授業「アイドルプロデュース衣装製作」16名が選択。メンバー7名分の衣装を製作

1月25日青山ラビネス6周年LIVE及び桜丘春のファッションショーにてお披露目する

*「アイドルプロデュースSNSプロモーション」を選択科目に新設。アイドルSNSの企画立案を通し、SNS分析やマーケティングを学び、就職活動での即戦力化を目指す

⇒選択授業「アイドルプロデュースSNSプロモーション」12名が選択。TikTokで青山ラビ

- ネスのメンバー動画を作成。最大再生回数3. 7万回再生。最大「いいね」回数312回
- 青山ラビネス公式アカウントのフォロワー数も3. 1万フォロワーに増加
- *2025年からパリ研修旅行は希望者制に移行。海外研修へ参加しない学生については、ユニバーサルスタジオジャパン方面への旅行を計画する
 - ⇒不参加の学生に対する代替え案は実施しなかった
- *興味のある科目を積極的に学べる様に、選択科目を1年次後期に新設する。クリエイト科はパターンメイキング検定、ビジネス科はグラフィックワークなどの選択を用意する
 - ⇒ファッションクリエイト科1年 パターンメイキング検定、7名選択
 キャリアデザイン、18名選択
 ファッションCADスキル、17名選択
 - ファッションビジネス科1年 グラフィックワーク、5名選択
 キャリアデザイン、8名選択
- *2年次の選択科目には英会話などを新設し、更に選択科目を充実させる
 - ⇒サバイバル英会話、13名選択

ウ) デジタル専門課程、国際情報ビジネス科

- *1年次退学者が減少し、入学希望者も増加していることで、定員充足率が良化している。優秀な入学希望者が増加するよう、授業内容などを検討していく
 - ⇒学生の希望の多い起業を支援するカリキュラムを充実
 導入予定カリキュラム、「マーケティング」「経営論」「ビジネスコミュニケーション」

2. 企画部

(1) 基本計画

募集対象者のニーズを把握し、それに応える一貫性のあるメッセージを、ICTを活用して発信する

(2) 具体的内容

ア) ファッション専門課程

- ① 高校生のニーズに応える学びを説明（パンフレット、HP、フライヤー、高校内ガイダンスで周知徹底）アイドルと連携して「クリエイション」と「ビジネス」が楽しく学ぶことができることを訴求
 - ⇒当校以外にもアイドルとの取り組みをスタートさせる学校が散見され、差別化が十分図れない状況
 - ⇒SNSの授業に興味を持つ高校生は一定数いるが、アイドル×SNSの取り組みで新規に開拓できた高校生は少なかったように感じた
- ② 桜丘が選ばれる『3つのポイント』から『4つのポイント』に改定し一貫して高校生に周知徹底
 - *学びやすい学費で、質の高い教育を提供する
 - *授業から就職活動支援まで誰一人取り残さない
 - *授業内完結型教育でプライベートも充実
 - *“衣装製作”と“SNSマーケティング”でアイドルをプロデュース(次年度より新追加)
 - ⇒様々な媒体を通じて高校生に周知できた
- ③ ICT化推進による情報発信の強化
 - *SNS強化 (Instagram)
 - ⇒フォロワー数が14,000フォロワーから11,800フォロワーに減少
 (▲2,200フォロワー)
 - *リスティング広告の適時配信
 - ⇒3月単月でリスティング広告経由の資料請求4件、OC予約2件
 - *ランディングページの新規作成
 - ⇒ランディングページを新規作成したが、十分な効果は出なかった
- ④ 高校生の利便性を第一優先にした楽しいOCの開催
 - *高校生の利便性
 - ⇒総来校者数は158名（前年比▲10名）
 - *楽しいOC

⇒6回開催して40名の生徒さんに体験していただいた。

イ) デジタル専門課程

① 日本語学校（特に前年度出願のあった実績校）との関係強化

⇒当校独自ガイダンス開催の交渉を強化し、8本の独自ガイダンスが組めた（前年比+5本）
ただ、独自ガイダンスを開催すると見返りとして合格者を一定数確保できるのではないかと考える日本語学校の先生がいらっしゃることも事実。当校のレベルを理解して、適切な学生を送り出していただけるような関係を構築していきたい

② 指定校推薦制度

→選考料全額（20,000円）免除、入学金半額（50,000円）免除
⇒指定校推薦制度での出願者数は5名と前年から激減したが、全体のレベルUPには繋がった

ウ) 定量目標

- ① 出願目標 ファッション専門課程…50名 デジタル専門課程…40名
⇒ファッション専門課程38名（▲12名） デジタル専門課程54名（+14名）

3. 学園本部

(1) 基本計画

- ア) 教育活動収支単独黒字に向けて学生総数200名確保のための学科施策
イ) アパレル業界のDX状況を調査し、現場のデジタル化の変化に対応するカリキュラムと人材育成
ウ) 金融資産の現物株式及び投資信託から社債、債券、オルタナティブ投資等リスクを分散し、ポートフォリオの多様化を目指す
エ) 飯田橋駅中央地区再開発の遅延に伴う、学内環境の整備

(2) 具体的内容

- ア) 教育活動収支単独黒字に向けて学生総数200名確保のための学科施策

* 2025年度期首学生総数（見込み）

	1年	定員	2年	定員	3年	定員	計	定員	充足率
技術科					6	10	6	10	60%
FC	29	30	23	30			52	60	87%
FB	14	30	20	30			34	60	57%
JB	36	40	36	40			72	80	90%
計	79	100	79	100	6	10	164	210	78%

※略称 FC：ファッションクリエイト科、FB：ファッションビジネス科、JB：国際情報ビジネス科

※JBは教室に36名しか入らないので、応募者が多くても定員にならない

⇒学生総数は2025年度165名（実績）から177名へと12名増加

*アイドルプロデュース衣装製作の更なるブラッシュアップ

アイドルプロデュース衣装製作も3年目になり、プロダクションの評価と高校生の評判を得たが、今後、アイドルグループ“青山ラビネス”の知名度が向上するとともに衣装の完成度、ストーリー性など更にブラッシュアップし、恒常的に入学定員100%を目指す

⇒ファッションクリエイト科2024、2025年度定員30名充足するも2026年度は24名と定員未達

*ファッションビジネス科の定員充足率を引き上げる施策

ファッションクリエイト科は入学者の約半数が“アイドルプロデュース衣装製作”のカリキュラムを希望。ファッションビジネス科も同じ手法で“アイドルプロデュースSNSプロモーション”のカリキュラムを新たに立ち上げ、ファッションクリエイト科との相乗効果で入学者を確保する

⇒復調することが出来なかった。

*国際情報ビジネス科の再構築

国際情報ビジネス科の定員40名1クラス体制では学習進度、理解度などに個人差ができ学習効果を最大化する障害になっている。プログラミングなどの難易度の高いカリキュラムでは1クラス20名程度が適正。1学年を午前コース、午後コースに分け、クラス人数を最適化して学習効果を上げると共

- に入学定員を40名以上に引き上げ、学生総数80名から最大90名を目指す
⇒国際情報ビジネス科の入学者を54名と14名増員
- イ) アパレル業界のDX状況を調査し、現場のデジタル化の変化に対応するカリキュラムと人材育成
*ファッションに特化した生成AIを活用したデザイン、商品企画の導入状況調査委、検証
(例:株式会社ワールドの系列会社、株式会社OpenFashionの“MaisonAI”導入事例検証)
*2Dから3Dへ、CLO Enterpriseの3Dモデリングシステムの導入状況の調査、検証
⇒調査の結果3Dモデリングシステムの導入状況は予想に反し停滞。また、AIデザインソフトも
現段階では開発途上であり、導入は時期尚早と判断した
- ウ) 金融資産の現物株式及び投資信託から安定的に利息、配当金が受け取れる、社債、債券、オルタナティブ投資に資金を振り分けリスクを分散し、ポートフォリオの最適化を目指す
⇒目標に向けてリバランスを図る
- エ) 飯田橋駅中央地区再開発の遅延に伴う、学内環境の整備
人件費や資材など建築費の高騰により、再開発の進捗に不透明感がでている。現状では再開発組合設立も、2025年3月から2025年8月に延期になり、更に2026年3月に延期になっている
2重投資を避けるため学内の環境整備を先延ばししていたが、学生の満足度の向上と学生募集でのイメージアップも含め環境整備の改装を順次行う
⇒夏期休暇中に1号館、2号館の学生使用トイレを全面改修し、環境整備に努める

以上